

# ふるさと再発見

Re-discovery Omihachiman

第25回

## 新春清めの行事

# 白王町の行者講



「行者不動」と唱え冷水をかぶる行者

寒の入りの1月6日、白王町で行われる「白王の水行」は近年メディアでも多く取り上げられる有名な行事となりましたが、もともとは白部村（江戸時代の村名、明治初期に王ノ浜村と合併して白王村（町））で行われていた行者講にもとづきます。

行者講とは、修験道の始祖である役行者を信仰し、その霊場である奈良県吉野郡の大峰山・山上ヶ岳を参詣するための代参講です。信者は多くは町を一つの単位として組織されますが、複数に分かれるところもあります。不動明王の命日とされる六日に講を行います。毎月行うところもあれば、正月の初行者のみどころもあります。当日は、講員が当番のヤド（宿）に集まり、役行者の掛け軸を祀

り、般若心経や因果和讃を唱え、百万遍の数珠繰りなどを行います。場所によつては、その後、会食をするところもあります。

大峰山への代参は年に一度、5月8日の戸開きから9月30日までの戸閉めの間で、主に8月下旬から9月中旬までに行われます。代参者は、先達に伴われ大峰山・山上ヶ岳の金剛蔵王権現を祀る蔵王堂に参拝し、講員全員分の札を拝受します。中之庄町の講では土産に吉野名物の伝統薬陀羅尼助を買ってきたといい、観光の要素を含むこともあります。かつては水行で身を清め精進してから参拝をしました。長田町では、出発一週間前に長田川上流で般若心経、不動真言を唱える姿が見られたといわれます。こうした禊ぎ行事が

ほとんど見られなくなった中、現在でも伝承されているのが「白王の水行」です。

近年の水行は、新講、旧講がそれぞれ町の東端の家に集まり庭で火を炊き、導師役が般若心経を二度唱えます。水行をする行者は六尺ふんどしに腰籠のみの裸同然の姿で、首に念珠をかけ、頭にビニール（かつては渋紙）をさらしの鉢巻きで締め付けます。

そして集落の東から西に向かって、各家が用意する清めのためにナンテンの葉が入ったバケツの水を次々にかぶっていきます。まず「お水取り」と呼ばれる人が、「この水とったり」と唱えてバケツを取り上げ、行者を先導します。すると行者が「南無行者不動」と叫んで念珠

をかみしめながら頭から水をかぶります。新旧および講員であるなしにかかわらず、約40軒分の水をかぶっていくため、非常に厳しい行といえるでしょう。集落の西端の家が温めの風呂を焚き、行を終えた行者はゆっくりと湯船に浸かります。水行が終わると、他の講員が「ただいまの志を」と言って家々から代参の費用となる白米を集めます。一旦解散した後、講員が各家一人ずつ宿に集まります。旧講では導師役が錫杖を鳴らして大峰山動行法を唱えた後、百万遍の数珠を繰ります。

午後9時頃、うどんやぜんざいが振る舞われた後、申し送りなどが行われ初行者講は終了します。内湖干拓以前は、代参者だけでなくその家族も湖で身を清め精進に努めたといわれます。



庭で般若心経を唱える導師役の行者が、東端の家の前で先立ちながら火を焚き、最年長者が

令和2年12月1日現在  
人口と世帯 ( )は前月比

総数	82,262人	(±0)
男	40,400人	(-11)
女	41,862人	(+11)
世帯	34,436世帯	(+10)

※外国人住民(42カ国・地域/1,498人)を含みます。

新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

広報おうみはちまん

令和3年1月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課  
〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236  
TEL:0748(33)3111 FAX:0748(32)2695

MAIL [kouhou@city.omihachiman.lg.jp](mailto:kouhou@city.omihachiman.lg.jp)  
WEB <https://www.city.omihachiman.lg.jp>